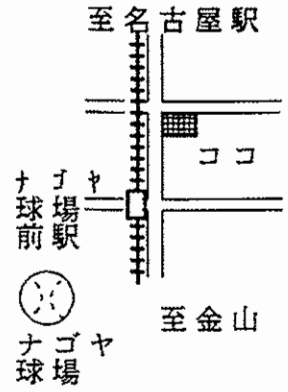


補償コンサルタント情報コミュニケーション誌

補償ミニコミ



発行日 発行所 (株) 新日 TEL 052-331-5356 編集者
3ヶ月毎1回 名古屋市中川区山王一丁目8-28 FAX 052-331-4010 秋山学

暑中御見舞

今年は、ほんとうに暑い日、寝苦しい夜が続いています。冷夏で稲が不作であった去年の夏とは大違い、今年は雨があまりにも少なくて稲の不作が心配されています。自然は不思議なもので年間をトータルすれば降雨量等、うまく帳尻が合う仕組となっているのですが、この数年このメカニズムに狂いが生じてきているのではと感じさせるほどです。

これは、人間があまりにも自然を破壊してきたことが原因か、それともスイ星が木星に衝突する等の天体の異変によるものなのか、あるいは、これも自然では大きなサイクルの中の帳尻合わせの一貫であるのか。いずれにしても、去年は米の買い溜めに奔走し、今年は暑さで夜は寝ぐらく、また水不足懸念からポリタンクや飲用水の買い出しに日曜日にはスーパーへ女房に付き合われる等、疲れきみの日々を送っているありさまです。

こんな状況をパーと吹き飛ばすような良い出来事でもと期待しているのですが、プロ野球もドラゴンズは相変わらず、いまいちの状況を続けている有様です。

世の中、経済も社会状況もまた、体もなんだか夏バテの感じですが、あと一ヶ月もすれば、やがて涼しくなり、ドラゴンズも優勝争いに加わっているのではとわずかな期待をしております。

まだまだ暑い日が続くことが予想されますが、皆様方にはどうぞ健康には充分気を付け、この暑さの中、業務に取り組みでいかれますよう暑中御見舞申し上げます。(M・A)

補償余

駆け出しの頃 (3)

鑑定士の試験は夏場である。その夏まえに入院を余儀なくされリズムが狂った。時間があれば勉強出来るというタイプでなく、集中力でペースを作るタイプの自分にとって大きな試練となった。しかし、自分が若手として経済学や会計学については縁あって手に入った、商業高校の教科書を熟読した。

「経済原論」「企業会計学」はあまり理解出来なかった。何はともあれあつという間にその年の夏は来た。

さて仕事に復帰したが相変わらず超多忙でいわゆる五、六千坪の土地のミニ開発を測量、設計許可

出た。しかし、ひょっとしてと階段の途中に重い本を置いて、下の郵便受けを見た。今朝の様子と少しも変わっていないが、念のため手を差し入れた、なんと待っていた物は遂にやって来た。助かったとまず思った。その場で今日買った書籍はもう一度熟読しようと思った。

事実、この二次試験以後、毎日最低三十分間の読書の習慣が有難いことにずっと続いている。

大学を卒業してから約2年半、お世話になったコンサルタントをその年の十月に退職した。恐いもの知らずと言うか仕事が沢山有ったからか、とありあえず同世代三人で独立した。

そして第一次石油ショックにいたる四年間は、

恐ろしいような時代であった。過剰流動性から土地投機、日本列島改造論とまさに激動の時代であった。私の年齢も三十才といわば若さの限りで登記関係・現場の施工管理・設計業務等の基礎から応用実戦まで血となり肉

となる毎日であった。補償」という業務からやや離れた。このような業務経験が実は総合的な観点から、用地補償を把握出来ることになったと今現在を振り返っている。(Y・W)

物件調査と失敗 (1)

さて長年の業務では、今思い出しても微苦笑の出る得がたい失敗もありました。そしてそのような経験を通過してさらに自分が成長するということはいくつか見かけることです。

今だから話せるようなことを紹介しますが国道のバイパス関連の事業で一般家屋が10軒程度支障になった案件のことです。

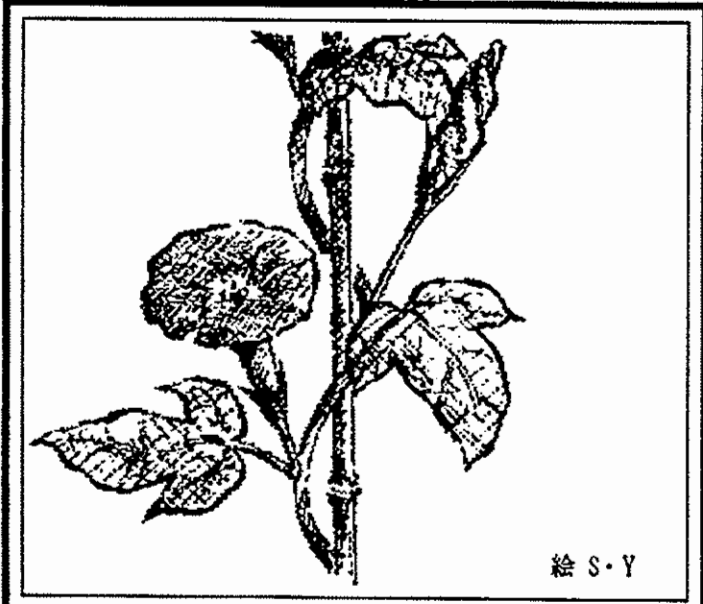
築後20年以上経った建物が多い中で、一軒だけ2、3年前に水まわり関係で改築した家がありました。いつもの通り5人程度でパーティーを作り挨拶の後、居住者調査のヒヤリングをする間もな

の後に先程まで、お茶を入れてくれた奥さんみせてくれました。なんと、そこにあつたものは先程まで、お茶を入れてくれた奥さんみせてくれました。なんと、そこにあつたものは先程まで、お茶を入れてくれた奥さんみせてくれました。

業務検査について

補償コンサルタントとして、検査といえは、一般的には受注、業務納品時の完了検査と起業者が受ける会計検査に同席する場合とがあります。

業務完了検査は、起業者によって実施するところと、実施しないところさまざまでありますが、業者として困惑するのが、用地とは無縁の人が検査官となつた場合です。



絵 S・Y

通常の業務として何の疑問も感じなかった移転工法や補償項目等について素朴な質問をされたとき、その返答がなかなか明確に出来なくて汗びっしょりとなることもしばしば経験するところでありました。

また、社内でチェックしたはずにもかかわらずたまたま検査官が報告書をひらいた部分で、単純なミスが発見され、指摘を受けるといったこともあり、深く反省することとなります。

用地と無縁な検査官ゆえに的を得た鋭い指摘が可能であり、社内においては充分なチェックは当然ながら我々の補償業務に直接タッチしていな人の目を通すことも必要ではと考えさせられるところです。

また、会計検査は、本来起業者が受けるもので我々業者とは直接には関係ない検査ですが、毎年

のよう起業者の方々は非常に神経を使い、我々も検査を受けるための準備のお手伝いをさせていただく結果となるわけでありました。

以前担当した業務について会計検査院の調査官が、業務内容に興味があるので勉強させてほしいと弊社を訪問され、とんだ勉強会となったこともありました。

いずれにしても検査する側、検査を受ける側ともに、それなりの準備が必要となるわけですが我々補償コンサルタントとしてどんな検査官から、またどんな側面から指摘を受けたとしてもその指摘に的確な返答が出来るような社内チェック体制を整えなければならぬと考えてはいますが、時として単純なミスが発生したりチェック機能が充分に果たすことが出来ないというのも事実であり、業務の大きな課題となっています。(M・A)